平成31年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の取組の概要実現に向けた
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働		児童生徒像	「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 〇 自己決定できる生徒（見つけよう！なりたい自分） ① 自ら就労を目指す生徒 ② 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ③ 地域と連携し、貢献できる生徒	〇 社会的行動の確立 ・SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 〇 就労支援 ・作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大 〇 地域連携 ・地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目		取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】		学校関係者評価		見直しのポイント【A】
専門性の向上	就労に必要な資質の向上を目指す生徒の育成による自立	知的障害特別支援学校教員としての専門性の向上と、就労による自立を支えるために必要な指導力の向上	【現状】 〇認定講習受講者100% 〇特別支援学校技能検定1級取得者8名から10名に増加 〇アビリンピック受賞者 銅賞1名から銀賞1名、銅賞2名に増加 【目標】 〇認定講習受講計画の履行率を100%とし、当該校種の免許所有率を84.6%（31年度末）とする 〇技能検定1級取得者12名、アビリンピック金賞1名	〇認定講習受講と単位取得者の申請。 〇日々の作業学習の中で、技能検定、アビリンピックの検定内容を取り入れ、生徒の技能向上を進める。 〇定期的に作業学習の会を開き、生徒の習熟度を共通理解し、次の作業に活用する。 〇夏季休業中に開催される教育センター等主催の専門研修等への参加の推奨。	B	〇認定講習受講計画の履行率にうち希望者多数で選に漏れた者以外は100%は達成できた。 本年度1名特別支援学校教諭免許状取得申請予定。 〇作業学習において技能の向上を図ることができた。 ・アビリンピックでは、ビルメンテナンス部門で金賞受賞者1名を輩出できた。 ・技能検定では、1級受賞者23名を輩出できた。 〇それぞれの生徒のキャリア評価・改善シートにあげられた課題について、確認しあいながら現在の状況を全員が共通理解し支援できるようになった。 〇夏期休業中の専門研修～35講座受講。	〇認定講習のうち、受講希望者が多く選に漏れ受講できなかった科目について、通信教育で単位習得を目指す。 〇免許状申請が可能となった者へ申請の声掛けを行う。 〇アビリンピック全国大会出場に向けた強化練習を行う。 〇全国障害者スポーツ大会出場に向けた強化練習を行う。 〇日々のクラブ活動での意欲と意識の向上につながる指導を行う。 〇日々の作業学習における作業スキルのブラッシュアップを行う。	A	**〇認定講習** 受講できなかった科目については、通信教育で単位認定。**新たな免許状申請者4名。** （所有率66.7%　18人中12人保有） ※R2申請者3名（保有率83.3%） **〇アビリンピック県大会** 【ビルメンテナンス部門】金賞1名、銀賞2名、銅賞2名 金金賞1名は全国大会出場 【接客部門】銅賞2名、努力賞1名 **〇高知県特別支援学校技能検定** 【清掃部門】 1級18名、2級6名、3級3名、4級9名 【接客部門】1級5名、2級1名、3級1名 【情報部門】3級4名、4級4名、5級1名 **〇障害者スポーツ大会** 金賞7名、銀賞6名、銅賞7名 ※うち走り高跳び<ひで県新記録1m60cm →全国大会出場	A	日頃の学習で重ねた経験が、こうして検定や競技会で毛kkくはだすことが生徒たちにとっては良い励みになると思う。 日々の実践の結果なので、先生方の努力に頭が下がります。	生徒にとって、最も見通しの持てやすい活動であり、努力の結果が直接分かりやすい活動であると思われる。さらなる活動の継続と拡大が必要。
キャリア教育の充実	職業生活に必要な力の育成	卒業後の安定した職業生活の実現に向けて、生活習慣を確立させ、ソーシャルスキル及び職業スキルを高める	【現状】 〇一般就労率82% （企業就労率73%） 〇遅刻者、早退者の減少 〇ソーシャルスキルの育成は不十分 【目標】 〇実習、進路先の拡大（90事業所確保） 〇一般就労率80%台 （企業就労率70%） 〇キャリア評価・改善シートの活用 〇卒業後5年間の離職率の抑制 （15%以下）※アフターケア充実 〇生活習慣の確立（遅刻、早退者0%） 〇SNS関係問題行動の減少（年間0件） 〇性の問題行動の減少（年間0件）	〇進路部を中心にした、進路開拓（生徒数×2倍＝90事業所の開拓 〇アフターケアの充実 〇キャリア評価・改善シートを活用した課題克服 〇学校生活全般における生活習慣の指導の徹底（遅刻0%） 〇SNS、ソーシャルスキル、性に関する行動に係る学級単位での少人数で行うディスカッションの定期的開催（1回/月）	B	〇進路開拓90事業所達成 〇障害者就業・生活支援センターを連携してのアフターケアの回数が増加 （25回→35回） 平成30年度卒業生離職率6% 〇キャリア評価・改善シートによる評価の実施と校内研修での取組による、教員の意識の改善が見られる。 一年度末の校内研修で1年間の総括を行う。 〇学年ごとの仲間との関係づくりに主眼を置いた特別授業の開催（ソーシャルスキル） 〇学級会議を月2回開催できており、生徒の理解度も高まってきている。。	〇キャリア評価・改善シートの活用により明らかになった課題の改善に向けた取組を行う。 〇アフターケアの継続と卒業生の就労状況に関する情報の収集を行う。 〇学級会議及び少人数でのディスカッションの定期的な開催に取り組む。	A	**〇進路開拓96事業所。** **〇アフターケア回数56回。** **〇平成30年度卒業生離職者1名（9%）** →アフターケア増加により、過年度卒業生の離職及びトラブルにも素早く対応できた。（3件） **〇キャリア評価・改善シート**→2学期末の担当者会で様式の変更等を行い改善実施。通知票前・後期制実施と合わせて、生徒の現状の把握と課題の精選が進むと同時に、教員の業務改善も進んだ。 **〇学級・学年会議**→学級、学年会議開催の定着が進んだ結果、生徒同士の問題の共有化が進み、関係性の向上が見られるようになった。（平均月2～4回開催）	A	一般就労率の高さには驚かされる。生徒の努力にも頭が下がる。 離職を食い止めるためのアフターケアへの取組は、根気が必要だが、熱心に取り組んでくださった結果だと思う。	アフターケアの回数維持と外部支援機関との情報交換を密にすることで、卒業生の動向把握に努める。 ステップアップシートの改善に努め、ワークスキルとそしゃるスキル向上に努める。
学校設定項目	地域連携・貢献	地域における清掃活動、店舗のバックヤード作業、商店街、町内会の行事への参加を通じて、生徒の貢献意欲と自己肯定感を高める	【現状】 地域、商店街のイベントへの参加 ・みかづき祭りへの出店による参加率 学級参加率(100%)　保護者18/43(42%) 生徒17/43(40%) ・よさこい祭りにおけるボランティア清掃及び給水活動への参加率32/43(74%) ・ハロウィン フェスタでのお菓子、チラシの配布 生徒8/43(19%)　　総参加率　44% 【目標】 〇地域での清掃活動の継続 〇地域のイベント、行事への参加率向上 よさこい祭りでのボランティア清掃及び給水活動参加率80%以上	〇生徒、PTAへの年度初めの行事、イベントの周知 〇清掃活動のアピール・啓蒙活動 〇生徒会による、地域貢献活動への積極的な関与	B	〇商店街での清掃活動は、週当たり2回実施できた。 〇みかづき祭り参加者 （ ）内数は昨年度参加者 生徒15名32%（17名） 保護者15名39%（18名） 〇よさこい祭り清掃及び給水ボランティア活動 （ ）内数は昨年度参加者 生徒35名75%（32名）	〇地域の施設、駅舎清掃、商店街清掃等の活動の継続 〇ハロウィンフェスタへの参加	B	各種イベントへの参加→参加者は大体昨年度並みであった。次年度はPTA総会等での情報提供を徹底し、周知を行い、参加に対する意識化を図る。 〇地域に出ての活動 →清掃活動、量販店でのバックヤード作業は定着しており、地域への貢献度は確実に増えている。	A	今後も地域に出ての活動を継続してほしい。地域も、もっとみかづき分校のことを啓もってきるよう、ともに活動していきたい。	地域での活動の継続。
働き方改革		健康で活性化された職場づくり	【現状】 個人の時間外勤務350時間（月平均32時間） 【目標】 個人の時間外勤務を350時間以下に抑え、月平均を30時間程度とする	〇分掌業務の分担の推進 〇長期休業中の一斉休業（学校閉庁日）の実施を計画 〇月あたり時間外勤務平均の抑制（30時間以下） 〇事務作業の効率化による負担の軽減	B	〇分掌内での業務の精選を行い協働による分担を進めた。 〇月あたりの個人の時間外勤務の抑制（時間外勤務最長教員平均46時間） 〇通知表を前・後期制に改め、その代わり学期ごとの個別面談をキャリア評価・改善シートにより行うことで、教員の事務作業が軽減された。	〇さらなる分掌業務の分担の推進を行っていく。 〇業務軽減を個人だけではなく学級単位でも見直しを行い、可能な学級業務を削減もしくは軽減する。 〇キャリア評価・改善シートの内容をさらに主とめやすくし、教員の事務作業の軽減に努める。	B	**〇負担軽減**→キャリア評価・改善シートの導入に合わせて、通知票前・後期制の導入により、一定教員の負担度は軽減された。分掌レベルでの業務分担は、専門性の問題かも、進んでおらず、分掌内での引き継ぎ、研修を進めることで一部に負担加重になる傾向を改善したい。 **〇個人の時間外勤務平均**→4月～12月までの9か月間の平均181時間（月あたり20.1時間）	A	難しい課題だと思います。 業務の平準化を図ることが最も良い方法と思うが、教員同士の情報交換や風通しの良い職場づくりも結果として相互の助け合いにもつながるのではないか。	風通しの良い職場づくりに努め、教員間の相互協力意識の向上を図るとともに、学級、分掌業務の平準化を進める